

もりよこあなぼぐん

## 森横穴墓群

(磯子区No.56 遺跡)

所在地 横浜市磯子区

時代 古墳時代



### 調査概要

県土整備部（けんどせいびぶ）横浜治水事務所（よこはまちはすいじむしょ）管内の急傾斜地崩壊対策事業（きゅうけいしゃちほうかいたいさくじぎょう）に伴う発掘調査。森浅間神社のある丘陵（通称浅間山）の東側急斜面の中腹（ちゅうふく）に位置しています。周辺は海岸沿いに切り立った崖（がけ）が連続し、屏風ヶ浦（びょうぶがうら）と呼ばれています。横穴墓は崖の中腹標高（ひょうこう）約25m前後に3基（き）開口（かいこう）しています。

現在はマンションや首都高速湾岸線などによって眺望（ちょうぼう）が遮（さえぎ）られていますが、かつては真下を走る国道16号線付近が海岸線であり、海が真下に望める良い立地にありました。

度重（たびかさ）なる斜面の崩落（ほうらく）などのため3基とも遺存（いぞん）状態は悪く、天井部から羨道（せんどう）部付近は斜面に沿って大きく崩壊しており、玄室（げんしつ）部分しか残っていませんでした。3基とも玄室の奥壁（おくへき）中央に小規模（しょうきぼ）な棺室（かんしつ）がさらに奥へ設けられているタイプで、鮎川（いたちがわ）流域（りゅういき）を中心に分布する地域色の強いものです。その棺室開口部の形態は1・2号が横長の長方形、3号が縦長の台形を呈し、3号奥壁近くの床面には棺室（かんしつ）の蓋石（ふたいし）であったと推定される切石が見つかりました。遺物は1号から須恵器（すえき）平瓶（へいべい）の完形品と人骨が見つかります。



▲古墳時代 1号墓



▲古墳時代 3号墓棺室蓋石出土状況